

中医協「2012年度第4回 診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会」 2012/7/27  
次回改定に向け基礎係数・機能評価係数Ⅱの基本方針を整理

診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会（分科会長：小山信彌・東邦大学医療センター大森病院心臓血管外科部長、東邦大学医学部外科学講座心臓血管外科教授）は7月27日、次回診療報酬改定に向けた基礎係数・機能評価係数Ⅱに関する基本方針を議論・整理した。

事務局は、前回までの議論を基に次回診療報酬改定に向けた基礎係数・機能評価係数Ⅱに関する基本方針の具体案を提示。具体案は、①基礎係数・機能評価係数Ⅱによる評価体系の基本骨格、②医療機関群の設定、③機能評価係数Ⅱの評価体系——以上3つに大きく分類された。

①では、医療機関群別の基礎係数と各施設の実績による機能評価係数Ⅱの評価体系の基本骨格を維持すること、②では、現行のDPC病院Ⅰ群及びⅡ群を維持するとともにⅢ群の設定の在り方を検討すること、及びⅡ群の要件についてⅠ群の最低値をクリアするという考え方を維持するなどの考えが例示された。また、③では、現行の6項目による評価体系を維持するとともに新規評価項目の追加を検討すること、及び各項目の具体的な評価手法を医療機関の実績等を考慮しつつ見直ししていくことが提案された。

②について、Ⅱ群の要件となる「Ⅰ群の最低値」に対し、緒方裕光委員（国立保健医療科学院研究情報支援研究センター長）から「『Ⅰ群の最低値』に含まれない外れ値の定義方法を確立してほしい」という要望が出された。そのほか、委員からの要望や反対は特になく、この日出された意見を踏まえ、今後この基本方針を基に議論を進めていく方向で意見の一致を得た。

■基礎係数・機能評価係数Ⅱにおける今後の検討課題を整理

会合では、①次回診療報酬改定に向けた課題、②2018年度改定に向けた中長期課題——に関するたたき台が提出された。具体的には、①でDPC病院Ⅲ群の在り方、②ではDPC/PDPS対象病院の在り方及び個別医療機関のバラつきへの評価の在り方が提案された。

①において、工藤翔二委員（公益財団法人結核予防会複十字病院長）や美原盤委員（公益財団法人脳血管研究所附属美原記念病院長）から「Ⅲ群に分類されている病院が非常に多い。果たすべき機能や地域への貢献状況などを考慮し、Ⅲ群をより細かく分けるべきではないか」という意見が出され、今後、この意見を参考にしながらさらに議論を進めていく方向性が打ち出された。

一方②においては、櫻村暢一委員（医療法人溪仁会手稲溪仁会病院副院長）から「調整係数から基礎係数に置き換える際の激変緩和の在り方も考えるべきではないか」との発言がなされた。これを受け、②の項目に「激変緩和の在り方」を追加することで委員の同意を得た。これらの議論を整理した上で、次回の中医協・総会において基礎係数・機能評価係数Ⅱに関する基本方針及び検討課題の内容を報告する予定。

次回会合は8月下旬に開催予定。